

あいち農産物生産流通レポート

2023年5月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 遺伝子組換え食品に対する食品表示制度の一部改正について (食育消費流通課)	1
◎ 地域トピックス	
・ 大人気ハーブ苗の販売戦略について (西三河農林水産事務所)	3
・ JAひまわりがミニトマトのブランド力向上に関する取組を実施 (東三河農林水産事務所)	4
◎ 東日本情報	
・ 冷凍野菜等加工・業務用野菜に関するセミナーが開催されました (東京事務所)	5
◎ 西日本情報	
・ 「いいともあいち運動」の取組について (食育消費流通課)	7
◎ フラワーページ	
・ 愛知県の花きの生産動向について (園芸農産課)	9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の5月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

遺伝子組換え食品に対する食品表示制度の一部改正について

食育消費流通課

遺伝子組換え技術により品種改良された遺伝子組換え食品については、消費者庁が制定した食品表示基準に基づき、消費者に、遺伝子組換え農産物であることや、遺伝子組換え農産物が不分別の状態で混ざっていることが伝わるよう、遺伝子組換えに関する表示が必要となっています。

遺伝子組換え食品の表示方法には、必ず表示しなければならない場合（義務表示）と事業者の判断で表示することができる場合（任意表示）に分けられていますが、2023年4月1日から消費者に食品の情報がより正確に伝わるよう、任意表示の方法が厳格化されました。

1 遺伝子組換え食品

遺伝子組換え食品とは、他の生物から有用な性質を持つ遺伝子を取り出し、その性質を持たせたい生物に組み込む技術（遺伝子組換え技術）を利用して作られた食品です。

日本国内では、2023年4月現在、食品として安全性審査の手続きを経た遺伝子組換え食品は、農産物（大豆、とうもろこし、ばれいしょ、菜種、綿実、アルファルファ、てん菜、パパイヤ及びからしなの9作物）及びそれを主な原材料とする加工食品（33食品群）です。

2 任意表示の改正

分別生産流通管理（※）が行われたものの、遺伝子組換え農産物の意図せざる混入がある場合（大豆及びとうもろこしについては混入率が5%以下の場合）の遺伝子組換えに係る表示は、任意で行うことができます。

このたび、任意表示を行う場合の表示方法について改正されました。

※分別生産流通管理とは

遺伝子組換え農産物と非遺伝子組換え農産物を農場から食品業者まで生産、流通及び加工の各段階で相互に混入が起こらないように管理し、そのことが書類等により証明されていることをいいます。

改正後は、分別生産流通管理を行い、遺伝子組換えの混入がない場合にのみ、以下の表示ができることとなり厳格化されました。

「原材料名（遺伝子組換えでない）」

「原材料名（非遺伝子組換え）」

従前の記載例

「原材料名（遺伝子組換えでないものを分別）」
「原材料名（遺伝子組換えでない）」
※意図せざる混入があっても、「遺伝子組換えでない」等の表示が可能であった。



改正後の記載例

「原材料名（分別生産流通管理済み）」
「原材料名（遺伝子組換え混入防止管理済み）」
※意図せざる混入が認められる場合の記載例

2 義務表示

以下の場合、遺伝子組換えに関する表示が義務付けられています。

表示方法に変更はありません。

- ① 分別生産流通管理が行われた遺伝子組換え農産物及びそれを主な原材料とする場合

記載例：「原材料名（遺伝子組換え）」

「原材料名（遺伝子組換えのものを分別）」

- ② 分別生産流通管理が行われていない対象農産物及びそれを主な原材料とする場合

記載例：「原材料名（遺伝子組換え不分別）」

大人気ハーブ苗の販売戦略について

西三河農林水産事務所

2022年度に開催された「第32回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクール」において、西尾市でハーブ苗経営を営む岩瀬^{いわせ}全安^{まさやす}さんが、農林水産大臣賞を受賞されました。岩瀬さんにかがった、ハーブ苗づくりの創意工夫やこれまでの歩みをご紹介します。

1 現代に求められる花きとは

「これ、素敵でしょう。」と見せていただいたのは、紅茶カップとハーブが並んで描かれたラベルでした。岩瀬さんは、情報化が進む社会では、単にきれい、かわいいというだけでは、曖昧すぎて興味を持ってもらえないと考えています。生産するハーブ苗を楽しんでもらうために、ラベルを工夫して一目で用途がわかるようにしています。



デザイナーと作ったラベル

2 ハーブ苗の高付加価値化を実現

野菜苗などを生産していた岩瀬さんが、ハーブ苗に注目したのは、10年以上前に小売店舗を調査していたときです。当時のハーブ苗は、店先で水分不足となり萎れかけたものがしばしば販売されており、多くの客に見向きもされない中、たまに訪れる愛好家は、熱心に商品を選んで買って行くのが印象的で、ハーブ苗の潜在的な価値を感じたそうです。

そこで、岩瀬さんは、「①商品情報の発信、②棚もちがよい、③オリジナル種」をコンセプトに商品をつくることに決め、一念発起して2012年からハーブ苗生産を始めました。複数種のハーブ苗を、葉色が美しいものや花が咲くものはガーデンセット、紅茶に向くものはハーブティーセットなどとカテゴリー分けして、消費者が選びやすくしています。土が多く入り水持ちのよい大きめの硬質鉢や超緩効性肥料を採用した結果、売り場でのロスが少なくなり、販売店から繰り返し注文されています。また、栽培する130種ものハーブ苗には、国内外から集めた独自のものも多く、季節ごとに飽きさせないラインナップを展開しています。



カテゴリー分けされた中からほしいハーブを選ぶ仕組み

3 今後の展望

今はあまりの人気に、生産量が市場からの注文量に追い付いていないほどだそうです。岩瀬さんは、地域の花苗生産者に呼びかけてグループでハーブ苗を生産する体制を整えているところであり、今後増産して需要に応えたいと語ってくれました。

岩瀬さんのお話には、売れるモノづくりのヒントが隠されているように感じました。これからも、新たなハーブの世界を紹介いただくのが楽しみです。

130種もの苗生産現場は壮観



J Aひまわりがミニトマトのブランド力向上に関する取組を実施

東三河農林水産事務所

1 取組の経緯

J Aひまわりは「ハニーレット®」という商標でミニトマトを共選出荷していますが、農家間の品質格差や、他産地との差別化が難しいことなどから単価の伸び悩みなどの課題を抱えていました。

そこで2022年度に、あいち農業高度化プランナー派遣事業を活用し、高度な専門知識を有するプランナーの派遣を受け、ミニトマトのブランド力向上による産地競争力の強化に取り組みました。

2 取組の内容

取組では、派遣されたプランナーを中心に、部会役員などの農家有志、J A職員、農林水産事務所農政課、農業改良普及課等の関係者が、「ハニーレット®」の置かれた現状の把握から始め、課題解決のための方策を検討してきました。

検討は月に一回のペースで計7回実施し、関係者の間では活発な意見交換が行われました。

この結果、産地が目指す中長期的ゴールのイメージと課題を解決するための具体的な行動計画などを示した「中期計画ロードマップ」として取りまとめ、これに基づいた取組を進めていくこととなりました。

<中期計画ロードマップの概要>

○取組のコンセプト

単価アップに向けた産地ブランドづくり

○中期的ゴールのイメージ

レギュラーパック単価、日本一の維持、京浜品質査定会で1位、部会内の品質統一

○重点実施項目

品質向上のためのマニュアル（栽培・検査方法）整備、新規就農者の確保、産地PR

3 今後の展開

作成された「中期計画ロードマップ」に示された中長期的ゴールのイメージ（あるべき姿）の実現に向けて、関係機関との連携のもと、個別課題の目標達成に向けた取組を支援していきます。



検討の様子

冷凍野菜等加工・業務用野菜に関するセミナーが開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023年2月24日（金）にタワーホール船堀（東京都江戸川区）において「令和4年度水田農業高収益作物導入推進事業成果発表会」（主催：野菜流通カット協議会）が開催されました。当セミナーでは冷凍野菜等加工・業務用野菜に関する様々な話題提供がありましたので、その一部を紹介します。

1 冷凍野菜の加工特性と技術動向

（農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門 安藤泰雅 氏）

（1）T-T T（Time-temperature tolerance）について

冷凍食品の品質が保たれる許容限界は保管期間・温度の組合せによって決定されるというT-T T（Time-temperature tolerance、時間品温許容限界）という考え方があります。T-T Tに関するデータからは、温度と品質保持期間（対数）は直線関係で低温ほど品質保持期間が長いこと、品目・包装条件・成分比等の条件で品質保持期間は大きく異なることが明らかになっており、温度による品質保持期間の予測、温度履歴からの品質劣化度の推算が可能となっています。

（2）冷凍加工の欠点

青果物を冷凍すると、細胞構造破壊、組織軟化、テクスチャ変化等が起きますが、これは冷凍時の食品中で生じる氷結晶が原因で、解凍後の品質に大きく関与します。氷結晶の成長を抑制・微細化し、品質低下を低減するためには急速凍結が有効です。しかし、急速凍結、緩慢凍結のどちらでも解凍後に細胞膜の損傷が生じるため、生食するものはシャキシャキ感を損ねない凍結・解凍方法の確立が課題となっています。

（3）冷凍野菜の品質を決める要因

冷凍野菜の品質向上について、外的要因（凍結・解凍技術、前処理技術（加熱・脱水等）、保管方法）の改善には限界があります。さらなる品質向上には、内的要因（成分組成・水分量、細胞組織構造、細胞膜機能）に着目した研究が必要と考えられます。

冷凍食品の国内消費量は全体では増加傾向で、それに比例して冷凍野菜の輸入量も増加しています。しかし、国内の冷凍農産物の生産量はほとんど増減がなく推移しています（図1）。今後、国産冷凍野菜の割合を増やすためには、①低コスト化（省力化）、②品質面での差別化が求められます。

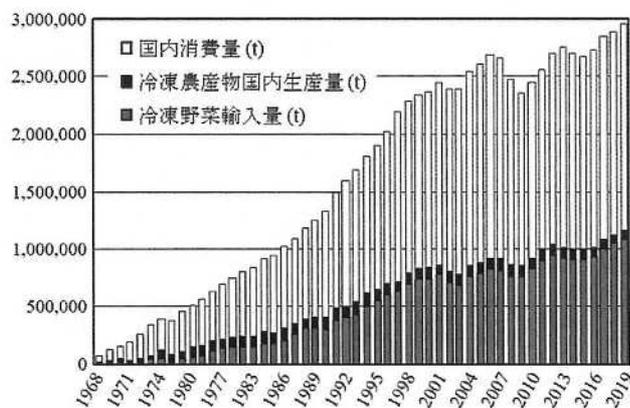


図1 冷凍食品の国内消費量の推移

国内消費量および冷凍農産物国内生産量は（一社）日本冷凍食品協会統計資料（2020）を参照。冷凍野菜輸入量は農林水産物輸出入統計（2020）を参照。

（出典：2023年2月24日開催セミナー配付資料）

2 青果物の流通合理化を目指した生鮮貯蔵と冷凍技術

(株式会社前川製作所 ソリューション事業本部 比留間直也 氏)

(1) 青果物のコールドチェーンについて

青果物貯蔵の最適な条件は品目により異なりますが、大半の品目は最適温度が1℃以下、最適湿度は90%以上です。しかし、現行のコールドチェーンでは経済性が優先され、低温管理(5℃)は行われていますが、湿度管理は行われていません。次世代のコールドチェーンでは、経済性と環境面の両立、生産から加工までの連携、貯蔵によるバッファ機能の強化が求められます。

ブロッコリーでは、現状は魚介類の輸送のような設備と管理が必要で、氷詰めした発泡スチロール容器での流通が主流となっています。このブロッコリーの流通合理化を図るためには、折りたたみコンテナでの輸送や貯蔵、産地でのフローレット化^{※1}、国産冷凍野菜としての市場展開の調査が必要と考えられます。長野県から首都圏への輸送の想定試験では、現状の氷詰め発泡スチロール容器での流通と同等の品質を維持するにはMA包装^{※2}または高湿度冷蔵が必要、貯蔵温度は0℃(冷却)が望ましい、常温輸送は3時間程度であれば貯蔵への影響は少ないことが明らかになりました。

※1 フローレットは茎から切り離した房の部分。

※2 MAはModified Atmosphereの略で、外気の透過の抑制により青果物の呼吸を低下させ、包装内を低酸素・高二酸化炭素状態にして鮮度を保持する包装。

(2) 国産冷凍野菜について

有識者は国産冷凍野菜の利点として相場変動に対応できること、1年以上在庫を持ちながら安定供給できること、課題として、差別化をいかに図るかということ(「これが冷凍か」と言わせるような技術)、かなりの供給量が必要であること(小規模生産を集めて如何に大規模展開できるか)、冷凍方法と販売先の検討、品質の上がっている輸入品との価格対抗等を挙げています。

生鮮野菜の冷凍は、肉・魚と比較して含水率が高く離水しやすい、変形に弱く軟化しやすい、変色や悪臭を防ぐためには酵素の失活処理が必要、という理由から難しい状況です。冷凍野菜の品質向上には、機械の進化だけでなく、冷凍に適した品種改良等も必要です。



図2 生鮮野菜の冷凍が難しい理由

紹介した話題はいずれも、冷凍野菜の品質向上には内的要因への着目が必要であるとしていました。

農産物の育種では、収量増加や食味改善、病虫害抵抗性の向上等に加え、近年は気候変動による気温上昇への対応として一部品目で耐暑性の付与も行われていますが、加工・業務用の需要がある品目は冷凍に適した性質の付与も必要になると考えられます。

「いいともあいち運動」の取組について

食育消費流通課

1 いいともあいち運動とは

「いいともあいち運動」は、県民の皆さんに農林水産業の大切さを御理解いただき、「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって本県農林水産業を支えていこうという取組です。また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい（利用していただきたい）という、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

2 いいともあいち運動の主な取組内容

(1) 運動の輪を広げ、県産農林水産物の認知度を高める

ア いいともあいちネットワーク等の拡大

- ・生産者団体を始めスーパー、飲食店といった流通関係者、消費者団体等のネットワーク会員あてに「いいともあいちだより」を配信
- ・県ホームページ「いいともあいち情報広場」や SNS (Facebook、Twitter、Instagram) 等で、会員の取組や新商品、店舗、イベント等の情報を広く紹介
- ・愛知県の農林水産業を応援していただける「いいともあいちサポーター」を募集し、メールマガジン「あいまる通信」を配信

イ キャンペーン月間（11月）の取組の強化

- ・大手量販店における「いいともあいちフェア」の開催

ウ 県産農林水産物を使った商品へのシンボルマークの表示

- ・運動の認知度向上のため、県産農林水産物及びその加工商品へのシンボルマーク「あいまる」の表示推進



シンボルマーク「あいまる」



いいともあいちフェアの様子

(2) 県産農林水産物の利用拡大

ア いいともあいち推進店の登録推進

- ・県産農林水産物や加工食品等の販売や利用に力を入れる販売店や飲食店を「いいともあいち推進店」として登録

イ 「愛知のふるさと食品コンテスト」の開催

- ・県内で生産された農林水産物を主な原材料に用いて製品化された加工食品を対象にコンテストを開催



2022年度ふるさと食品コンテスト

最優秀賞商品

大日食品株式会社

「愛知のキムチ」

3 いいともあいちネットワーク会員、推進店、サポーターの募集について

愛知県では、「いいともあいちネットワーク会員」、「いいともあいち推進店」、「いいともあいちサポーター」を随時募集しています。

詳細や申し込み方法等は、いいともあいち運動情報広場 (<https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/iitomoaichi/>) に掲載しておりますので、ご確認ください。



(いいともあいち運動情報広場)

(1) いいともあいちネットワーク会員

いいともあいち運動の趣旨に賛同いただける事業者・団体等（生産者、流通関係者、消費者団体等）を「いいともあいちネットワーク会員」として募集しています。

いいともあいち運動の趣旨にご賛同いただける事業者・団体等であれば、どなたでも無料で会員登録できます。

(2) いいともあいち推進店

愛知県産の農林水産物やその加工品を、積極的に販売している販売店や食材として利用している飲食店を「いいともあいち推進店」として募集しています。

ネットワーク会員でない方は推進店への申請に併せて、ネットワーク会員の登録が必要です。

(3) いいともあいちサポーター

愛知県の産品を食べて、使って、愛知県の農林水産業を応援していただける方々を「いいともあいちサポーター」として募集しています。

サポーターには、県産農林水産物に関するイベントや、お得な情報をメールマガジンで配信します。登録は無料で、お名前、住所等も不要です。

4 2023 年度を取組方向

SDGs や環境負荷低減の達成に対する社会的関心が高まる中、その一手法として「地産地消」の取組についても県民の関心が高まりつつあることも踏まえ、特に県内に向けて「地産地消」の実践を促すため、「地産地消あいち SDGs 推進キャンペーン」を一層推進します。

また、首都圏において知事や県内農業団体の代表者によるトップセールスやフラワーバレンタイン運動の啓発を実施するほか、愛知県茶会の開催などを通じて、あいちの農林水産物のイメージアップを図ります。

加えて、名古屋コーチン、みかわ牛、うなぎや本県が開発したかんきつやなし、いちごの新品種などの PR を行い、これらのブランド力強化を図ります。

なお、これらの取組は、庁内関係各課や関係機関とともに実施することで、より一層の波及効果、相乗効果が得られるよう進めていきます。

愛知県の花きの生産動向について

園芸農産課

毎年、農林水産省が発表している全国の花き生産状況について、2021年産の数値が発表されていますので、産出額の推移や市町村別産出額の割合などについて紹介します。

1 愛知県の花きの産出額

2021年産の愛知県の花きの産出額は542億円（前年比109.1%）、全国に占める割合は16.4%で、全国順位は1962年以降、60年連続して1位を保っています。

1998年の763億円をピークに減少傾向でしたが、2020年の497億円を底とし、近年は550億円前後で推移しています。（図1）

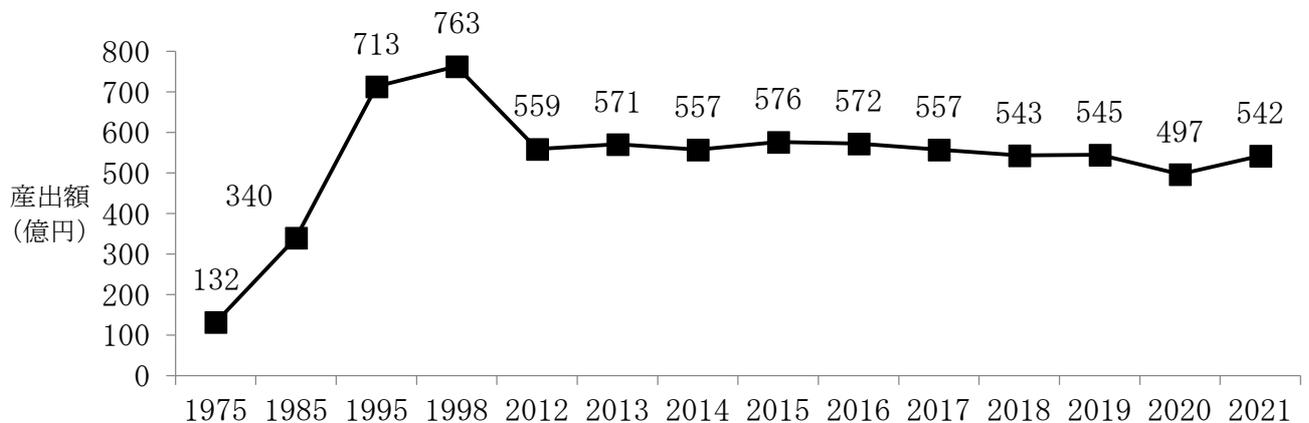


図1 花き産出額の推移

種類別の割合を見ると、542億円のうち280億円（51.7%）が切花、233億円（43.0%）が鉢物、23億円（4.2%）が花き苗になっています。

最も多く生産されている品目であるきくの産出額は、全体の36.2%（196億円）を占めます。ばらは4.2%（23億円）、カーネーションは3.1%（17億円）、鉢物の洋らんは8.9%（48億円）、観葉植物は15.7%（85億円）、シクラメンは1.5%（8億円）、花木類は4.4%（24億円）です。（図2）

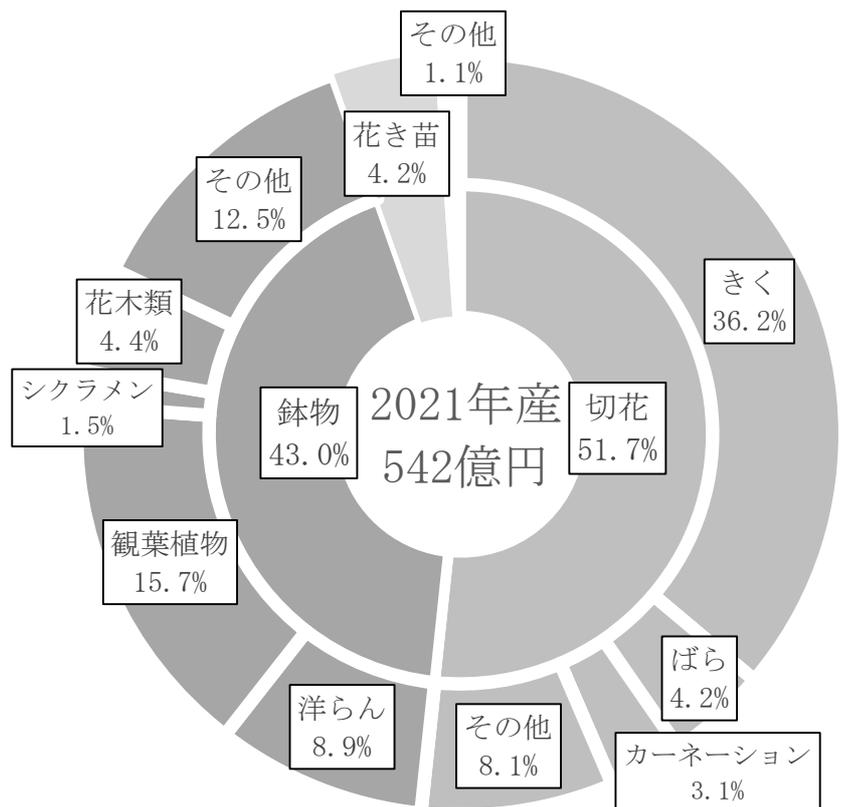


図2 花き産出額の種類別割合

2 愛知県の花きの作付面積

愛知県の花きの作付面積は、前年比増減なしの 1,939ha でした。種類別に見ると、切花と鉢物はそれぞれ前年から 0.1%、1.0%減りましたが、花壇苗は前年から 5.1%増えています。(図 3)

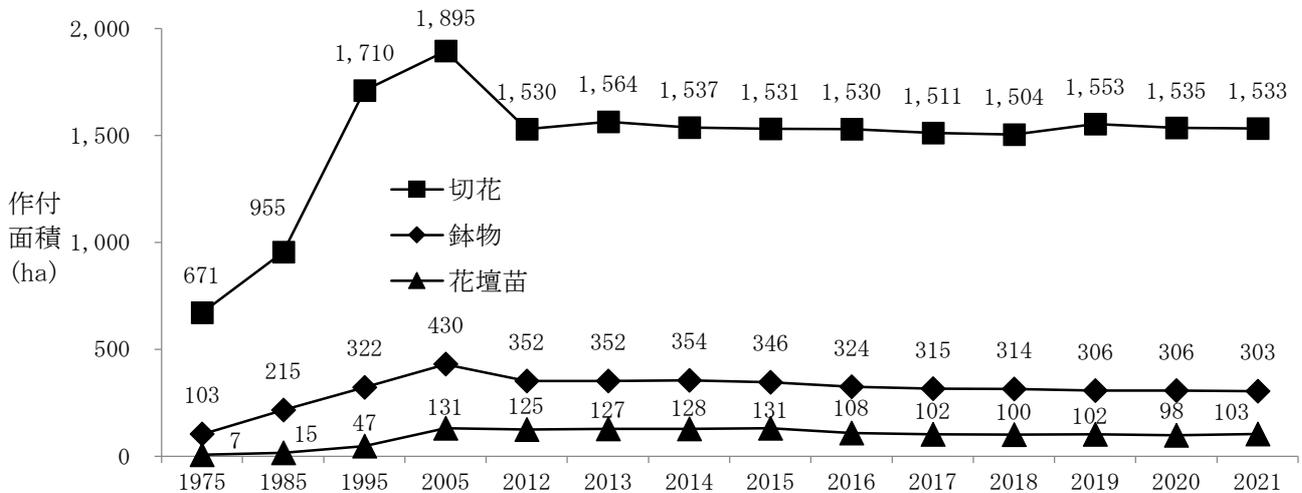


図 3 花き作付面積の推移

3 市町村別産出額割合

市町村別の産出額を見ると、田原市が 331 億 8 千万円で県全体の 61.2%を占めています。次いで豊川市の 31 億 9 千万円(5.9%)、西尾市の 28 億 7 千万円(5.3%)、稲沢市の 19 億 8 千万円(3.7%)、豊橋市の 18 億円(3.3%)となっており、この 5 市で県内の約 8 割を占めます。(図 4)

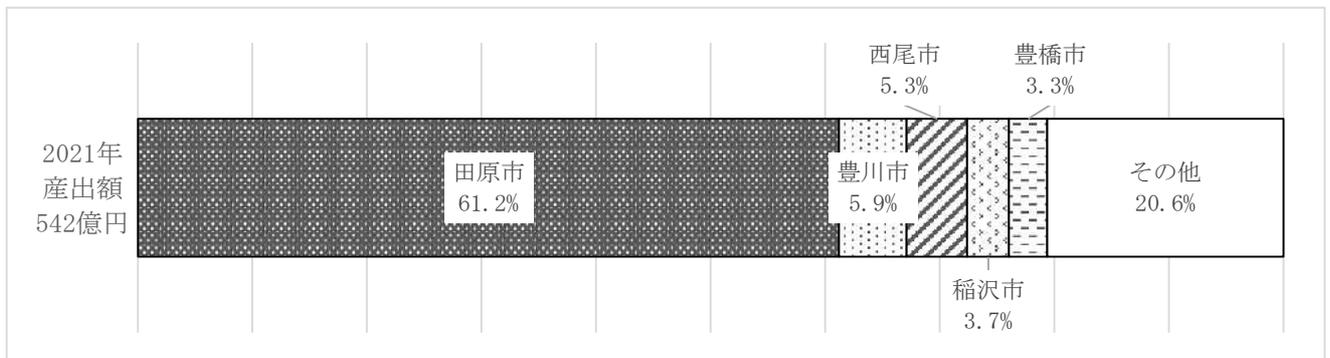


図 4 市町村別産出額割合

〈参考〉主要品目の生産状況 (2021 年)

品目	産出額 (億円)	作付面積 (ha)	出荷量 (千本・千鉢)	上位 3 都道府県(産出額)		
				1 位	2 位	3 位
きく	196	1,280	446,700	愛知県	沖縄県	福岡県
ばら	23	46	32,200	愛知県	静岡県	福岡県
カーネーション	17	45	37,700	長野県	愛知県	北海道
洋らん(鉢)	48	40	2,970	愛知県	福岡県	埼玉県
観葉植物	85	94	21,500	愛知県	静岡県	三重県
シクラメン	8	16	1,690	愛知県	長野県	栃木県
花木類	24	46	7,610	愛知県	新潟県	埼玉県

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	553	519 (94%)	617	617	愛知 (94%) 静岡 (5%) 福岡 (0.5%)
2023年見通し	600	—	700	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
県内の海部及び名古屋地域からの入荷が中心となる。 資材コストの高騰により、一部他品目への切り替えが起こり、3月中旬から7月中旬までは、荷動きが悪い見込み。 5月は大型連休があるが、使用量が限られるため、入荷量に不足はないか。 入荷量、価格ともに前年をかなり上回る見込み。			現時点で品質に問題はないが、今後夏場に入ると変色や腐敗などが発生しやすい時期となる。輸送上の問題もあると思うが、品質管理に引き続き留意願いたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	93	15 (17%)	867	1,220	北海道 (73%) 愛知 (17%) ニュージーランド (8%)
2023年見通し	113	—	760	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
前年は北海道のたまねぎの不作から相場を高騰させての販売であった。本年については平年並の入荷となっていた。 本県については、作付面積は横ばいである。愛知が主力となる5～8月は入荷量の少ない時期であるため、堅調な相場推移となる見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。			需要の多くは業務向けであるが、業務需要も大きく回復しているため愛知県への期待は大きくなっている。 品質の評価は非常に高いため、品質を維持して産地規模の拡大を目指してほしい。		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋市中央卸売市場

4月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2018年	35,247	215	207	218	愛知	29%
	2019年	33,516	215	209	214	長野	9%
	2020年	34,683	230	246	217	茨城	8%
	2021年	35,320	232	226	225	徳島	7%
	2022年	32,634	259	260	255	熊本	7%
	5カ年平均	34,280	230	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
計	2023年見通し	33,400	216	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に長野などから入荷する。果菜類は上旬から中旬にかけてピークを迎える品目が多い予想。大半の品目で価格は前年を下回る見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
だいこん	2018年	1,724	80	67	88	愛知	65%
	2019年	1,765	87	72	103	千葉	28%
	2020年	1,479	108	112	91	鹿児島	3%
	2021年	1,770	83	86	81	青森	1%
	2022年	1,562	118	96	135	岐阜	1%
	5カ年平均	1,660	94	86	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
計	2023年見通し	1,500	102	100	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に千葉などから入荷する。生育は順調で、愛知は5月上旬～中旬にピークを迎える見込み。今年は、千葉県産の出荷が前進気味のため、愛知中心の売り場となる予想。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	2018年	2,769	117	165	119	徳島	79%
	2019年	2,409	111	129	112	岐阜	17%
	2020年	2,450	133	137	136	兵庫	2%
	2021年	2,592	128	160	126	長崎	1%
	2022年	2,284	129	136	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	5カ年平均	2,501	123	146	124		
計	2023年見通し	2,300	130	130	130		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
徳島を中心に岐阜、兵庫から入荷する。生育は良好で、入荷量は平年並からやや少ない見通し。徳島は中旬、岐阜は中旬以降にピークを迎える見込み。 また、GW明けより荷動きが鈍くなる予想。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	142,138	230	227	234	231	千葉 17%
	2019年	136,302	223	217	229	224	茨城 16%
	2020年	127,259	246	260	227	250	愛知 6%
	2021年	122,610	251	253	243	256	群馬 5%
	2022年	119,593	273	272	271	275	佐賀 5%
	5カ年平均	129,580	244	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	125,000	255	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
4月の温暖な気候によりハクサイ、キャベツ等の葉茎菜類等で出荷の前進がみられる。5月下旬には雨天や気温低下が見込まれるため、品目によっては出荷量は少ないか。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	2018年	8,980	85	69	88	101	千葉 76%
	2019年	9,253	80	64	102	78	茨城 11%
	2020年	7,872	106	111	84	122	青森 7%
	2021年	7,895	82	89	72	83	福岡 2%
	2022年	7,630	116	104	128	115	香川 1%
	5カ年平均	8,326	93	86	95	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,600	110	115	105	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉中心に茨城などからの入荷となる。生育は順調で前進傾向。5月中旬まで出荷盛期、下旬には量が落ちていく。全体量は少なかった前年並か微減。相場は5月初旬は強めも、茨城の量次第で反落か。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。							
にんじん	2018年	10,370	132	173	130	97	徳島 66%
	2019年	7,965	124	132	119	123	千葉 22%
	2020年	7,323	143	145	141	143	茨城 3%
	2021年	7,697	143	171	139	124	北海道 2%
	2022年	7,738	135	140	135	130	埼玉 2%
	5カ年平均	8,219	135	153	132	122	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,800	140	150	140	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
徳島、千葉からの入荷が中心となる。徳島は12月の播種最盛期のものが出荷され増量の見込み。千葉は生育順調で前進傾向。中旬から徳島が減少するも関東産が増える見込みで、相場に大きな変動なしか。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	1,980	71	65	82	71	茨城 64%
	2019年	2,079	66	67	64	69	長野 17%
	2020年	2,040	126	177	95	109	愛知 15%
	2021年	2,077	61	59	55	68	三重 2%
	2022年	1,848	87	70	92	97	兵庫 2%
	5ヵ年平均	2,005	82	88	77	82	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	80	80	75	85	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は6月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月は減少傾向にある。単価は概ね100円/kg前後を推移している。</p>				
い	茨城を中心に長野、愛知から入荷する。各産地ともに生育順調で、長野産は下旬から入荷見込み。茨城、愛知は下旬から入荷減の予想。加工業務、量販店共に荷動き鈍く、単価が伸び悩む見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
キャベツ	2018年	3,729	75	80	74	77	愛知 78%
	2019年	3,089	107	90	131	103	茨城 9%
	2020年	3,506	127	149	127	108	兵庫 4%
	2021年	3,994	67	68	64	75	鹿児島 3%
	2022年	3,810	105	122	103	97	宮崎 1%
	5ヵ年平均	3,626	95	101	98	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3,800	95	95	95	95	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は概ね4,000t前後を推移している。単価は70円/kg前後を推移している。</p>				
つ	愛知中心の入荷で、一部茨城などから入荷する。生産は順調だが、前進出荷になれば、出荷にバラツキが出る予想。中旬から入荷増の見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。						
ほうれんそう	2018年	277	561	510	579	590	岐阜 59%
	2019年	316	453	379	511	468	茨城 27%
	2020年	351	513	547	483	511	愛知 6%
	2021年	401	467	489	446	472	静岡 4%
	2022年	287	575	558	589	574	長野 4%
	5ヵ年平均	326	509	496	514	518	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	370	500	500	500	500	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移。数量は概ね300t前後を推移している。単価は400円/kg前後を推移している。</p>				
そ	岐阜を中心に茨城、愛知などから入荷する。遅れた昨年と比べて平年並の出荷ペースを見込む。4月下旬～5月上旬頃に1度目のピークがくる見通し。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
う							

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

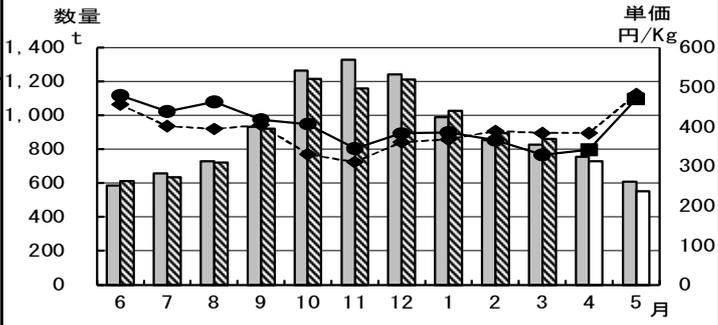
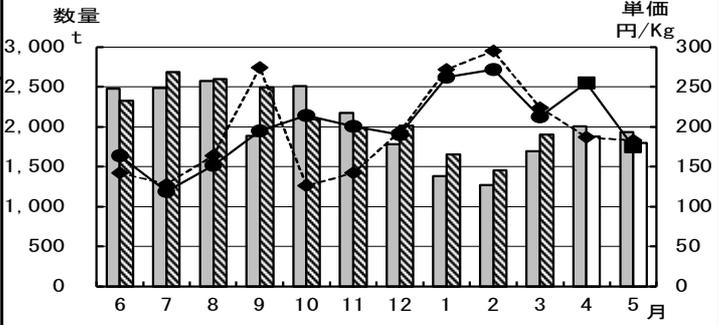
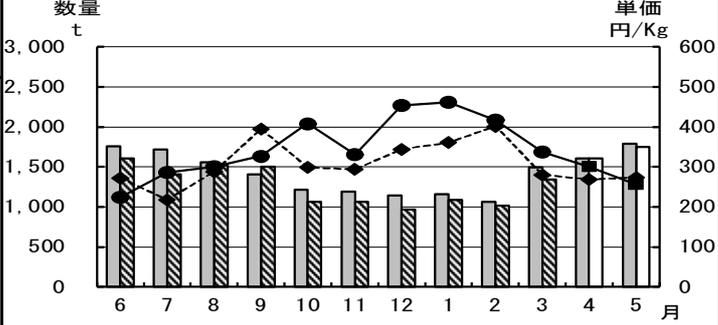
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	2018年	6,982	52	46	66	44	茨城 93%
	2019年	6,570	48	51	47	46	長野 5%
	2020年	6,787	105	168	71	86	群馬 2%
	2021年	6,583	47	49	40	51	
	2022年	5,924	74	63	86	73	
	5ヵ年平均	6,569	65	76	62	60	
	2023年見通し	5,900	75	90	60	75	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
4月に続き茨城からの入荷がほとんどを占める。一部で前進出荷がみられ端境の様相で、これに連休が絡み、5月上旬は出荷は不足気味か。下旬には長野や群馬の出荷が始まる。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。							
キャベツ	2018年	19,976	63	60	65	65	千葉 39%
	2019年	17,175	96	74	121	96	愛知 26%
	2020年	16,771	129	156	122	112	神奈川 22%
	2021年	18,127	64	72	60	60	茨城 11%
	2022年	17,842	99	101	99	96	兵庫 1%
	5ヵ年平均	17,978	89	91	92	85	
	2023年見通し	17,900	90	110	80	80	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉を中心に、愛知、神奈川、茨城などからの入荷となる。千葉は潤沢な入荷が続く。神奈川は出荷盛期が過ぎ減少していく一方、愛知と茨城は徐々に量を増やす。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ほうろ	2018年	1,412	446	421	480	442	群馬 41%
	2019年	1,481	370	340	399	370	茨城 36%
	2020年	1,526	427	462	379	440	埼玉 6%
	2021年	1,601	372	385	347	383	栃木 5%
	2022年	1,310	483	457	498	490	岩手 5%
	5ヵ年平均	1,466	417	412	417	423	
	2023年見通し	1,500	410	410	400	420	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し							
群馬、茨城など関東産地を中心とした入荷となる。各産地とも生育は順調に推移。気温が高いため一部産地では生育が前進するも、品質劣化で出荷減が懸念される。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	573	497	456	547	499	大分 30%
	2019年	604	416	439	402	417	愛知 14%
	2020年	606	463	475	433	484	茨城 11%
	2021年	557	487	500	486	478	静岡 6%
	2022年	609	482	452	477	515	埼玉 6%
	5ヵ年平均	590	468	464	468	478	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	550	470	450	470	490	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>大分、愛知などから入荷する。愛知産は越津ねぎから新ねぎにかわり順調な出荷予想。大分、静岡は春ねぎにかわり、昨年より減少見込み。白ねぎは、鳥取、静岡産が終了となり出回り量少なくなる見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
しそ	2018年	1,841	166	153	145	200	長野 78%
	2019年	1,689	188	193	201	174	山梨 6%
	2020年	1,796	172	218	153	151	兵庫 6%
	2021年	1,846	165	152	158	189	茨城 5%
	2022年	1,933	183	173	200	180	熊本 2%
	5ヵ年平均	1,821	175	177	171	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,800	175	170	175	180	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に山梨、兵庫から入荷する。各産地ともに前進傾向。茨城の切上りは早い見込み。面積減の為、入荷は少ない予想。玉流れは、大玉傾向。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
きゅうり	2018年	2,102	246	206	296	249	愛知 40%
	2019年	2,108	215	205	223	216	群馬 21%
	2020年	2,162	238	212	214	285	宮崎 9%
	2021年	1,852	255	208	219	378	長野 8%
	2022年	1,792	274	286	267	270	高知 8%
	5ヵ年平均	2,003	244	222	244	277	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,750	256	270	250	250	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に群馬、宮崎などから入荷する。冬春産地から春産地まで下級品が多くなる予想。冬春ものはやや少なく、群馬、長野の春きゅうりは平年並の出荷見込み。 昨年より外食の注文が多い傾向。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

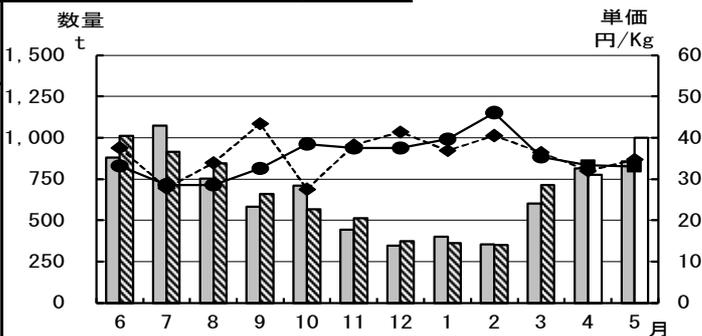
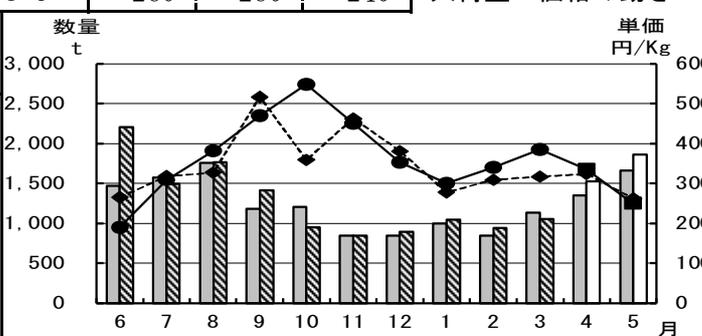
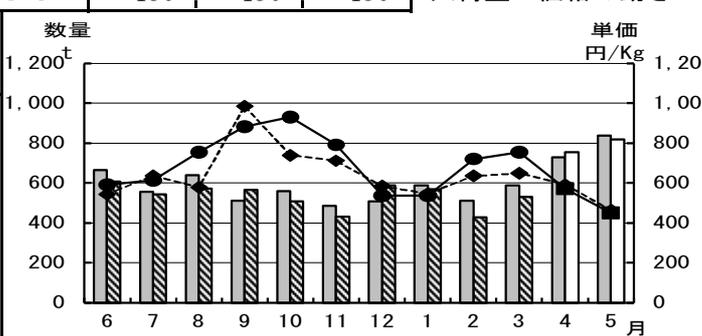
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4, 102	461	467	527	404	茨城 47%
	2019年	4, 234	406	431	375	412	千葉 24%
	2020年	4, 115	448	430	424	481	埼玉 8%
	2021年	4, 244	451	499	438	424	栃木 5%
	2022年	4, 105	449	370	410	438	福岡 4%
	5ヵ年平均 2023年見通し	4, 160	443	439	435	432	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも生育順調。中旬の入荷は茨城、千葉ともに夏ねぎが盛期となる。相場は上旬は連休絡みで堅調、出荷量が潤沢となる中旬以降は下げ基調の予想。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
しんじょう	2018年	7, 863	152	130	135	191	長野 48%
	2019年	7, 602	160	163	175	147	群馬 27%
	2020年	6, 679	156	200	131	141	茨城 17%
	2021年	6, 112	166	153	153	192	山梨 2%
	2022年	6, 604	167	158	183	162	兵庫 2%
	5ヵ年平均 2023年見通し	6, 972	160	160	155	167	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、群馬、茨城からの入荷が中心となるが、茨城は出荷前進のため早く終息し、中旬以降は生育順調な長野が中心となる。群馬も生育順調で前年並の出荷を見込む。入荷量は少なかった前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	9, 219	258	215	318	258	埼玉 27%
	2019年	8, 460	215	209	231	204	群馬 25%
	2020年	8, 229	246	312	212	204	宮崎 12%
	2021年	7, 633	257	213	218	353	茨城 10%
	2022年	7, 591	265	282	252	261	千葉 9%
	5ヵ年平均 2023年見通し	8, 226	248	245	248	254	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬が中心のほか宮崎などからの入荷となる。一部産地の作柄があまり芳しくなく、出荷の増減が大きいとみる。各産地とも生育はおおむね順調。連休明けに出荷増も、下旬にはやや減る見込み。入荷量は少なかった前年並で、価格も前年並となる見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	1,050	342	332	347	351	熊本 45%
	2019年	1,165	315	332	317	306	愛知 32%
	2020年	1,149	331	361	328	312	宮崎 19%
	2021年	1,035	347	351	337	355	高知 5%
	2022年	856	347	338	348	355	
	5ヵ年平均	1,051	335	343	334	334	
	2023年見通し	1,000	330	340	330	320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に入荷し、GW期間中から明けにかけてピークを迎える見込み。4月は曇天続きで出荷量が減り込んだため、5月中旬以降は順調な出荷となる見通し。マネキンによる売り場での試食も再開し、積極的な売り込み、販売となる予想。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
ト マ ト	2018年	2,177	235	266	244	202	熊本 53%
	2019年	1,980	210	219	213	204	愛知 19%
	2020年	1,884	228	276	212	205	三重 15%
	2021年	2,013	250	275	255	230	岐阜 12%
	2022年	1,662	262	249	272	269	大分 1%
	5ヵ年平均	1,943	236	257	239	220	
	2023年見通し	1,860	250	260	260	240	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に三重、岐阜から入荷する。4月以前の温暖な天候から着花良好で、各産地ともに順調な入荷見込み。GW中に出荷ピークに入る予想。下旬からは小玉中心となる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	2018年	777	501	529	500	475	熊本 65%
	2019年	832	439	461	437	418	愛知 29%
	2020年	842	423	500	407	379	和歌山 3%
	2021年	805	507	523	504	495	宮崎 2%
	2022年	838	462	473	440	475	
	5ヵ年平均	819	466	497	457	448	
	2023年見通し	820	450	450	450	450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に入荷する。上旬から中旬にかけて出荷ピークとなる予想。供給過多が続き、全体で安値推移する見込み。下旬以降は品質低下により産地ロスが増加するため、出荷がやや落ち込む見込み。入荷量、価格ともに前年をわずかに下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	4, 532	399	398	416	388	高知 43%
	2019年	4, 813	341	347	340	336	福岡 17%
	2020年	4, 606	374	406	364	357	群馬 14%
	2021年	4, 179	393	398	366	415	熊本 10%
	2022年	4, 038	398	409	416	396	栃木 4%
	5カ年平均	4, 434	380	392	380	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4, 200	390	390	405	375	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
高知を中心に、群馬など関東からの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調。曇雨天が多い予報もあり、出荷の増減は天候次第だが、概ね安定した入荷が続く見込み。入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。							
ト マ ト	2018年	10, 990	270	303	278	234	熊本 29%
	2019年	10, 019	246	247	250	242	栃木 25%
	2020年	9, 159	268	336	234	247	愛知 11%
	2021年	9, 097	283	311	288	255	茨城 7%
	2022年	8, 222	316	307	320	318	千葉 7%
	5カ年平均	9, 497	275	300	273	257	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9, 000	285	320	285	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、栃木を中心に、愛知などからの入荷となる。各産地とも生育は順調。熊本は4月下旬の大玉傾向が次第に小玉化していく。上旬は全体の入荷量が多い見込みで、荷動きが良くも相場は軟調か。入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ニ ン ジ ン	2018年	2, 742	470	493	464	452	熊本 44%
	2019年	2, 854	407	439	393	392	愛知 18%
	2020年	2, 769	397	488	375	344	千葉 9%
	2021年	2, 733	474	485	469	470	宮崎 9%
	2022年	2, 565	481	482	459	502	静岡 7%
	5カ年平均	2, 733	445	477	431	431	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 700	450	480	430	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知、千葉などからの入荷となる。各産地とも生育順調。天候次第ではあるが、中旬まで順調な出荷を見込む。大玉同様に徐々に小玉傾向となる。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

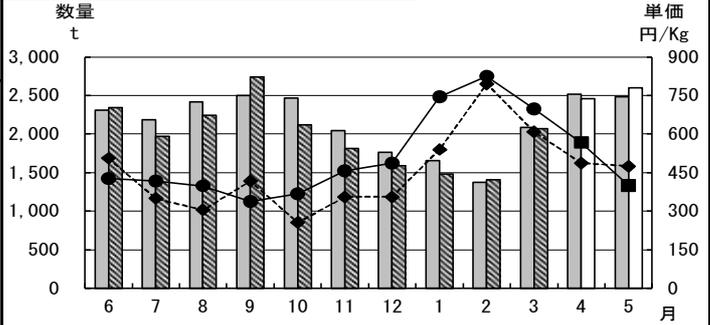
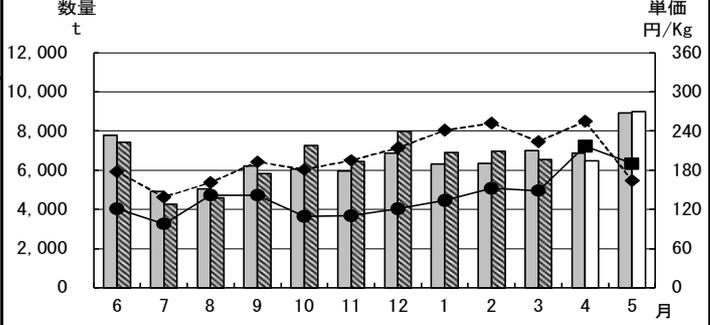
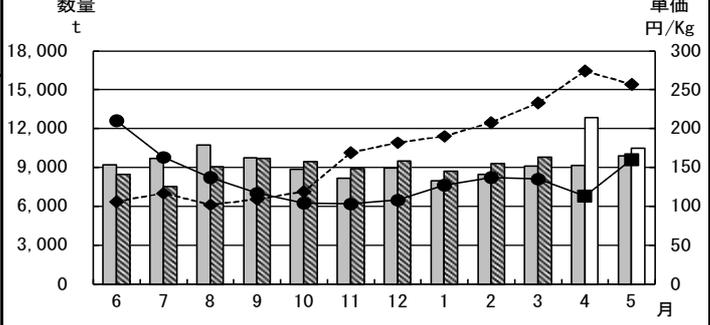
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	850	276	326	296	269	鹿児島 42%
	2019年	733	244	271	225	284	茨城 28%
	2020年	804	428	566	385	345	宮崎 19%
	2021年	781	342	392	342	327	高知 10%
	2022年	652	419	423	415	449	
	5ヵ年平均	764	340	396	331	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	700	380	430	360	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、茨城、宮崎を中心に入荷する。西南暖地の産地に関しては樹の状態が悪く、切りあがり早い予想から、数量少ない見込み。茨城は平年並の出荷を見込む。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。							
ばれいしよ	2018年	2,859	127	147	128	108	長崎 44%
	2019年	3,274	133	145	132	122	鹿児島 43%
	2020年	3,003	223	189	220	257	北海道 6%
	2021年	3,052	282	292	290	264	静岡 6%
	2022年	3,255	164	200	153	144	熊本 2%
	5ヵ年平均	3,089	185	195	184	178	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3,000	150	180	150	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長崎、鹿児島を中心に北海道などから入荷する。北海道は終盤で、鹿児島は生産遅れのため、上旬にピークを迎える見込み。長崎産は、5月上旬から出揃い、中旬よりピークを迎える予想。入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。							
たまねぎ	2018年	5,465	80	92	74	80	愛知 65%
	2019年	4,920	78	87	77	74	北海道 20%
	2020年	5,792	53	59	47	55	兵庫 8%
	2021年	5,579	80	76	80	85	ニュージーランド 4%
	2022年	4,479	221	244	217	211	熊本 2%
	5ヵ年平均	5,247	98	106	94	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5,000	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、北海道を中心に兵庫などから入荷する。愛知は上旬に出荷ピークを迎え、2Lを中心に入荷を見込む。兵庫はGW前後から、Lを中心に入荷を見込む。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	2,721	328	357	321	307	茨城 68%
	2019年	2,802	318	332	290	332	宮崎 15%
	2020年	2,802	486	607	424	433	高知 10%
	2021年	2,646	396	432	382	375	鹿児島 6%
	2022年	2,485	475	472	443	509	
	5カ年平均	2,691	399	440	371	389	
	2023年見通し	2,500	450	460	420	470	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に宮崎、高知などからの入荷となる。茨城は曇雨天の影響で生育の遅延がみられたものの、現在は回復し、平年並みに推移。需要期に入り荷動きはよくなる見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
							
ばれいしょ	2018年	9,465	118	130	123	104	長崎 46%
	2019年	9,658	132	143	132	122	鹿児島 38%
	2020年	8,375	232	187	228	272	静岡 6%
	2021年	8,754	287	300	292	270	北海道 5%
	2022年	8,920	164	212	158	142	熊本 4%
	5カ年平均	9,034	184	192	184	179	
	2023年見通し	8,900	190	205	190	175	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎を中心に、鹿児島、静岡などからの入荷となる。長崎は低温による生育遅れは回復傾向で、出荷量は順調に増やしていくも平年に比べてわずかに減る見込み。終盤の鹿児島は北西部からの出荷が続く。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
							
たまねぎ	2018年	12,933	90	93	92	86	佐賀 52%
	2019年	14,481	87	98	85	80	北海道 12%
	2020年	13,348	47	42	40	60	兵庫 13%
	2021年	9,973	101	94	103	107	千葉 5%
	2022年	9,922	257	250	246	272	
	5カ年平均	12,131	109	109	106	113	
	2023年見通し	9,900	160	210	150	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀、兵庫からの入荷が中心となる。佐賀は連休明けまで早生種が出荷盛期、中旬に落ち着くがその後も安定出荷を見込む。生育順調でL中心の見込み。兵庫も生育順調で前進・大玉傾向。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

4月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	7,100	417	442	429	405	熊本 27%
	2019年	6,419	426	450	427	424	フィリピン 26%
	2020年	6,126	441	462	436	443	青森 10%
	2021年	6,531	428	433	450	441	ニュージーランド 9%
	2022年	7,234	447	468	447	461	愛知 9%
	5ヵ年平均	6,682	432	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	7,300	430	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、りんご、メロン、いちごを中心に入荷する。りんごは連休明けから有袋ふじに切り替わる見込み。産地相場に左右され、売りは厳しく苦戦予想。いちごはGW後にやや入荷量が増え、下旬からは徐々に減少する見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	2018年	837	435	529	450	378	熊本 83%
	2019年	829	446	537	447	396	愛知 9%
	2020年	835	429	488	445	388	茨城 4%
	2021年	725	484	531	511	429	鹿児島 2%
	2022年	742	526	579	526	496	メキシコ 1%
	5ヵ年平均	794	462	532	474	415	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	730	520	550	520	500		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知、茨城、鹿児島などから入荷する。寒波の影響により、遅れ気味かつ小玉傾向。 熊本産はピークを迎え、愛知、茨城産は5月後半から増加する予想。 入荷量、価格ともに、前年並となる見込み。						
すいか	2018年	1,576	272	323	289	234	熊本 79%
	2019年	1,518	265	293	269	246	愛知 16%
	2020年	1,431	264	241	270	266	和歌山 3%
	2021年	1,083	271	304	306	258	沖縄 1%
	2022年	1,370	319	352	331	288	
	5ヵ年平均	1,395	278	302	292	257	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	1,250	300	320	300	280		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本を中心に愛知などからも入荷する。GWは、昨年より入荷する予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

4月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	27,416	447	481	443	420	熊本 28%
	2019年	26,366	438	468	444	410	青森 13%
	2020年	23,708	474	491	476	457	茨城 12%
	2021年	25,554	454	479	463	425	フィリピン 8%
	2022年	22,475	513	549	508	489	栃木 6%
	5カ年平均	25,104	463	—	—	—	
2023年見通し	25,000	490	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、茨城などからの入荷となり、すいか、メロンを中心に入荷する。4月は暖かい日が続き前進傾向。総じて各産地の生育は順調であり、まとまった入荷量となる見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
その他メロン（アールスメロン以外）	2018年	3,314	458	562	479	413	茨城 63%
	2019年	2,846	465	542	467	425	熊本 31%
	2020年	2,779	443	478	443	413	宮崎 2%
	2021年	3,229	481	531	484	414	愛知 1%
	2022年	2,652	561	606	554	497	
	5カ年平均	2,964	480	538	486	436	
2023年見通し	2,800	497	540	500	450	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、熊本を中心に、品種はアンデスやクインシーなどが入荷する。主力の茨城は好天により生育順調であり、GW明けから入荷量はピークとなる見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
す	2018年	7,402	287	327	298	248	熊本 66%
	2019年	6,806	281	316	286	262	千葉 18%
	2020年	5,942	279	259	289	288	茨城 12%
	2021年	6,860	297	319	314	270	群馬 3%
	2022年	6,187	330	363	337	307	
	5カ年平均	6,639	294	318	305	274	
2023年見通し	6,400	298	315	300	280	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本を中心に千葉、茨城などからも入荷する。大玉すいかの主力の熊本及び小玉すいかの主力の茨城は生育順調。潤沢な入荷を見込み、単価は前年を下回るか。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						

切花・鉢花の5月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	1, 7 2 4	3 2	
		2019年	1, 7 3 0	3 5	
		2020年	1, 1 2 3	4 0	
		2021年	1, 3 8 3	2 6	
		2022年	1, 0 4 4	6 9	
	5ヵ年平均	1, 4 0 1	3 8		
2023年見通し		1, 1 0 0	6 0		
概要	<p>愛知中心の入荷。上旬はゴールデンウィークと母の日参りもあり、M、S中心に動きがよさそう。中旬以降は品種の切り替わりも始まり、夏、秋品種が混じるが出荷量的には多くない見込み。</p>				
小 ぎ	実績	2018年	9 7 8	2 2	
		2019年	1, 0 5 0	2 6	
		2020年	9 9 7	2 6	
		2021年	8 3 6	2 0	
		2022年	8 1 1	4 4	
	5ヵ年平均	9 3 4	2 7		
2023年見通し		8 3 0	4 0		
概要	<p>沖縄、愛知からの入荷。上旬は母の日参り需要に期待。中旬以降は夏品種に切り替わってくるが、平年よりも作付が少ないため、数量次第で相場も大きく変わりそう。</p>				
カー ネー シ ョ ン	実績	2018年	1, 6 1 0	4 3	
		2019年	1, 6 0 0	4 3	
		2020年	1, 4 1 0	4 7	
		2021年	1, 4 4 3	4 4	
		2022年	1, 4 1 8	5 3	
	5ヵ年平均	1, 4 9 6	4 6		
2023年見通し		1, 4 0 0	5 0		
概要	<p>愛知、輸入中心。母の日の商戦は国内産が4月に前進傾向が続いたため、やや少なめで色により欠品の可能性もある。輸入は昨年と比べ値上がりし、物量は7割ほどと予想される。母の日が終わると愛知産は一気に来期に向け圃場整理に入る模様。</p>				
か す み	実績	2018年	2 2 0	6 4	
		2019年	2 3 0	6 5	
		2020年	1 7 8	5 9	
		2021年	1 8 3	8 1	
		2022年	2 2 1	7 6	
	5ヵ年平均	2 0 6	6 9		
2023年見通し		2 2 0	7 0		
概要	<p>高知、和歌山、熊本から入荷。前進出荷の影響から4月は各産地少ない出荷量であったが、5月上旬に回復し、ピークを迎える見込みで母の日以降は出荷が減少していくと思われる。</p>				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2018年	283	143	
		2019年	300	140	
		2020年	266	114	
		2021年	250	148	
		2022年	237	168	
	5カ年平均		257	159	
	2023年見通し		235	165	
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、新潟中心の入荷。前年並の入荷であるが、後半は天候の加減によるがやや少なくなる。LAは埼玉、鉄砲は高知中心の入荷。前年並の入荷で相場も前年並と思われる。</p>				
洋らん	実績	2018年	329	80	
		2019年	350	80	
		2020年	212	92	
		2021年	272	86	
		2022年	263	116	
	5カ年平均		285	89	
	2023年見通し		270	110	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡、徳島などの国産及び輸入品が入荷する。コチョウランは国産、輸入共に潤沢な入荷予想。カトレアは4月並の入荷見通し。デンファレは白とアンナが減少し、ソニア中心、オンシジウムは全体的に入荷減少気味。シンピジウムは国産はほぼ入荷なく、輸入が少しづつ入荷する。</p>				
ばら	実績	2018年	990	72	
		2019年	960	72	
		2020年	616	69	
		2021年	740	78	
		2022年	855	89	
	5カ年平均		832	76	
	2023年見通し		850	85	
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心。長野産も始まり、国内産地が揃ってくる。母の日、ローズの日とイベントが続き、それに伴った動きとなりそう。</p>				
枝	実績	2018年	1,309	47	
		2019年	1,400	47	
		2020年	924	53	
		2021年	1,097	56	
		2022年	1,209	64	
	5カ年平均		1,188	53	
	2023年見通し		1,150	60	
概要	<p>ドウダン類、スモークツリーは前半から入荷で引き合いも強い。アリアム類、ショウブなどの入荷はあるが、例年より早く終了となる。ビバーナム、姫リョウブ、アジサイなどの入荷が見込まれるが、前年より出荷のペースは速く、早々になくなるものが多い見通し。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2018年	18,365	596	
		2019年	21,489	720	
		2020年	20,587	648	
		2021年	20,402	813	
		2022年	25,109	688	
	5ヵ年平均	21,190	695		
	2023年見通し	23,500	700		
概要	<p>入荷量はかなり下回る。母の日需要が高まる5月上旬に出荷のピークを迎え、相場も高値が期待できる。 母の日は一気に入荷は減少し、相場も厳しくなる見込み。 5号鉢中心となるが、近年4号鉢以下の小鉢も引き合いが強くなっている。 昨年同様、発色の良い黄色、ピンクの引き合いが強い。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースでのシェアで1位長野(39.4%)、2位埼玉(15.2%)、3位新潟(7.6%)となっている。</p>				
ファレノ	実績	2018年	49,222	2,330	
		2019年	48,013	2,448	
		2020年	28,625	2,364	
		2021年	28,365	3,412	
		2022年	38,053	2,570	
	5ヵ年平均	38,456	2,572		
	2023年見通し	38,000	2,571		
概要	<p>入荷量は前年並か。近年、母の日等の物日でも単価が伸び悩みしている為、生産量は増やしていない。 勿論輸入苗に依存している為、輸入経費が上がり生産量を増やす事ができない状況である。生産量が増えない為、単価は前年並の予想。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.3%)、2位熊本(6.6%)、3位宮崎(6.3%)となっている。</p>				
バラ	実績	2018年	78,433	324	
		2019年	75,290	312	
		2020年	70,193	265	
		2021年	67,313	302	
		2022年	70,190	284	
	5ヵ年平均	72,284	298		
	2023年見通し	70,000	284		
概要	<p>入荷量は前年より減少か。暦の関係で母の日が遅く中旬まで需要が続き中値安定と思われる。 例年通り5号以下の小鉢中心の動きになる。 温度変化が激しいので咲き前と水管理に注意した出荷をお願いしたい。 前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(52.3%)、2位愛知(36.4%)、3位千葉(2.3%)となっている。</p>				

単位：鉢、円/鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ イ ド ラ ン ジ ア	実 績	2018年	284,993	921	
		2019年	280,059	872	
		2020年	231,310	816	
		2021年	234,934	958	
		2022年	246,542	947	
	5カ年平均		255,568	903	
	2023年見通し		246,000	947	
概要	<p>入荷量は前年並か。母の日の前年より遅い分5月上旬に集中するが、今後の天候にもよるが今年は全般に開花が早そう一部前倒し出荷の見込み有り。無加温の商材も少し早まる傾向である。5月中心の取り扱いが多く、褐色系の額アジサイと八重系の品種は引き合いが強い。多品種小ロット生産がより一層増えつつあり、近年小鉢の生産も増えており、相場は前年並の見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(52.4%)、2位群馬(13.7%)、3位埼玉(9.3%)となっている。</p>				
ス パ テ ィ フ ィ ラ ム	実 績	2018年	17,894	296	
		2019年	18,779	291	
		2020年	17,592	311	
		2021年	16,217	344	
		2022年	13,981	428	
	5カ年平均		16,893	329	
	2023年見通し		14,000	430	
概要	<p>入荷量は前年より増加か。母の日向けの3号の生産が少量だけ増えており、前年よりポットもの入荷は若干増える見込み。</p> <p>しかし、全体の入荷量が増える見込みは低く、ポットもの中心に競売比率は下がり平均単価は横這いかやや上昇の見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(39.1%)、2位愛知(32.4%)、3位静岡(16.9%)となっている。</p>				
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	2018年	377,299	493	
		2019年	363,009	443	
		2020年	215,562	502	
		2021年	237,366	548	
		2022年	260,109	541	
	5カ年平均		290,561	499	
	2023年見通し		260,000	542	
概要	<p>入荷量は前年並か。今季は過年度より母の日の遅く、尚且つ天候も4月に入り日中温度が高いため、品種によっては例年より前倒し出荷となる見込み。</p> <p>ポット物3号から3.5号入荷が少なく引き合いの見込み。</p> <p>買い手の様子見感あるが、各市場引き合いの見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(53.5%)、2位群馬(19.1%)、3位茨城(5.7%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていくという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.599
2023年5月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434